

遺骨盗掘問題 考えるシンポ

26日 県博・美

琉球・奄美の遺骨盗掘問題を考える対話シンポジウム「虐げられし者たちの連帯」が26日午後2時半から、那覇市の県立博物館・美術館2階講堂で行われる。旧京都帝国大学の研究者によって持ち出された琉球人遺骨の返還・再風葬を求める活動を展開している「ニライ・カナイ



「京都大収蔵の遺骨返還を求めぬ会」が主催。

シンポジウムへ参加を呼び掛ける「ニライ・カナイぬ会」の玉城毅共同代表（右）ら19日、那覇市の沖繩タイムス

める奄美三島連絡協議会」の原井一郎さんが登壇し、奄美人遺骨の返還を求める活動の現状を紹介する基調講演などがある。

同会の玉城毅共同代表らが9日、沖繩タイムスを訪れ、「奄美と連帯して、ふるさとにウヤ

ファーフィジ（祖先）を返したい」と思いを話し、来場を呼び掛けた。

資料代は500円で事前申し込みは不要。問い合わせは玉城さん、電話090（1179）9491。シンポジウムはビデオ会議システム「Zoom（ズーム）」での参加も可能で、詳細は「琉球遺骨返還請求訴訟支援全国連絡会」のフェイスブックから確認できる。